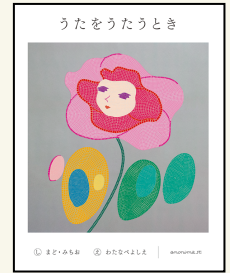


ホスピタルアートから生まれた本

詩と絵の本『うたをうたうとき』が生まれるまで

(詩：まど・みちお 絵：渡邊良重)

渡邊良重さん×松田素子さん（編集者）トークイベント



■渡邊良重（わたなべ よしえ）※山口大学教育学部卒業生

アートディレクター、デザイナー。1961年、山口県生まれ。山口大学教育学部卒業。グラフィックデザインを主とするデザイン制作会社・ドラフトを経て、アートディレクターの植原亮輔氏と共に2012年にキギ（KIGI）を設立。グラフィック、テキスタイル、「D-BROS」をはじめとするプロダクトのデザインを手がける。洋服やファッションのブランド「CACUMA」、琵琶湖の職人達と共に陶器を中心とした「KIKOF」などのブランドを立ち上げ、2015年には東京・白金にギャラリー&ショップ「OUR FAVOURITE SHOP」をオープンする。著書に『ブローチ』（文・内田也哉子）や『ジャーニー』（詩・長田弘、ジュエリー・蘭部悦子）、『UN DEUX』（文・高山なおみ）、『しんじゅのこ』（文・福永信）、作品集『キギ/KIGI』、マガジン形式の作品集『KIGI_M』シリーズを刊行。2017年、宇都宮美術館にて大規模個展「KIGI WORK & FREE」を開催。東京ADCグランプリ、東京ADC会員賞、第19回亀倉雄策賞等受賞。



■松田素子

1955年山口県生まれ。借成社にて「月刊MOE」の創刊・編集長を務め、退社後はフリーランスとして絵本を中心に300冊以上の本の誕生に関わってきた。長谷川義史、はたこうしろうなど、多くの作家のデビューに編集者として立ち会い、自身も翻訳者・著者として活動している。まど・みちおさんの晩年10年間を編集者として関わり、生み出したまどさんの書籍は『まど・みちお画集 とおいところ』、『絵をかいていちんち——まど・みちお100歳の画集』、『どんな小さなものでもみつめていると宇宙につながっている——詩人まど・みちお100歳の言葉』、『うちゅうの目』、『せんねん まんねん』、『くうき』、『まどさんからの手紙 こどもたちへ』などがある。

デザイナーの渡邊良重さんが国民的詩人であるまど・みちおさんの詩を選び、コラボレーションした詩と絵の本『うたをうたうとき』が2022年3月にアノニマ・スタジオより刊行されました。この本は、2019年に山口大学医学部附属病院の小児病棟に設置された「ホスピタルアート」をもとに書籍化したもの。まど・みちおさんと渡邊良重さん、今回の書籍化への縁を繋いだ編集者の松田素子さんは、同じ山口県ご出身という共通点もあります。

ホスピタルアートについて渡邊良重さんが大切にされたこと、『うたをうたうとき』の本作りの背景、まど・みちおさんの詩に込められた想い、渡邊良重さんのデザインのお仕事について…本を扉にして、さまざまなクリエイションのお話をお届けいたします。

2022年6月4日(土) 14時～15時30分

会場／山口大学吉田キャンパス福利厚生施設

- ◆ 限定60名様まで
- ◆ お申込み無料、ワンドリンクサービス付き
- ◆ トークイベント終了後、2階FAVObooksにてサイン会を実施します



お申込はこちらの2次元バーコードよりお願いします↑